

都市再生整備計画(第1回変更)

み ま
美馬地区(第2期)

とくしま みまし
徳島県 美馬市

平成30年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	徳島県	市町村名	美馬市	地区名	美馬地区(第2期)	面積	220 ha
計画期間	平成 30 年度 ~ 平成 34 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 平成 34 年度				

目標
 大目標：歴史文化伝説伝承を継承・保全し、歴史文化資源と観光を融合させ活性化を図る
 目標1：活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくり
 目標2：独自の価値を活かした「ブランド観光地域」づくり

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 美馬市美馬地区では、旧町時代から寺町のまちづくりに取り組んでおり、合併後も継続して地域活性化や観光振興を推進してきた。子育て施策においても積極的に取り組み、子育て支援・就労支援を行ってきた。
 ・平成2年3月：「寺町周辺整備基本構想」 歴史的特性を活かしたまちづくり
 ・平成16年8月：「交流施設整備事業基本構想」 文化と教育と産業を活かした交流施設整備
 ・平成16年9月：「美馬町交流拠点ネットワーク構想」 山と川と町の交流拠点の連携
 ・平成16年9月：「郡里廃寺跡整備構想」 国指定史跡の整備計画
 ・平成19年3月：「美馬市総合計画」 合併後の美馬市として初めての総合計画
 ・平成20年4月：「にし阿波観光圏整備計画」策定
 ・平成21年4月：「過疎地域自立促進計画」 「段の塚穴土地購入事業」「郡里廃寺跡整備事業」
 ・平成21年6月：「あおいる紀行」 うだつの町並みから美馬市内の歴史散策へと六箇寺紹介
 ・平成24年11月：「美馬市道の駅設置検討委員会」発足
 ・平成25年2月：「美馬地区都市再生整備計画」にて道の駅に併設し、高次都市施設事業観光交流センター整備計画作成
 ・平成25年4月：「にし阿波～剣山・吉野川観光圏整備計画」策定
 ・平成28年1月：重点道の駅「仮称美馬」として選定
 その他、安楽寺(寺町)の能舞台、寺町案内人、健康ウォーキングマップ、散策サイクリング観光マップなど、官民あけて、様々な寺町観光の推進を図っている。美馬市総合計画の施策の一つとして、市の観光資源である歴史文化遺産と豊かな自然環境が将来にわたり魅力ある観光資源として活用できるよう、市民と関係機関・団体の協力のもと保存・保全を図っている。
 また、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」や「社団法人そらの郷」などの県西部の観光振興のための連携や、美馬商業高校による特産品「みまから」の商品化、郡里小学校による「和傘作りの体験教室」など、観光や交流の活動が活発化している。

課題
 都市再生整備計画(第1期)では、主に新たな観光拠点として、道の駅に併設する観光交流センターの整備等を進めてきたところである。
 一方、従来からの観光資源である寺町や段の塚穴等は、歴史愛好家等の一定の来訪者から好評を得ているところであるが、来訪先や来訪者の層は限定的なものとなっている。
 このため、寺町や段の塚穴等の魅力をより高めるとともに、それらと観光交流センターを回遊できるよう結ぶことにより、地区全体の魅力を向上させ、より多くの集客を図る必要が生じている。

将来ビジョン(中長期)
 美馬市総合計画では、将来像として「四国のまほろば 美馬市」を掲げ、先人が培ってきた歴史・文化を継承しながら、市民の定住意識や地域への愛着を大切に、本市に住むことが誇りとなるようなまちづくり、多くの人が訪れ交流できるまち、全ての市民の基本的な権利が保障され、それぞれのライフステージにおいて常に元気に活動できるまちを創造するとしている。その基本方向として、次の3項をあげている。
 ・一人ひとりの市民が健康でいきいきと暮らせるまちづくり(支え合える地域社会/安心して健やかに暮らせるまち/男女共同参画推進/自己実現の活動機会の保障) 施策抜粋:男女共同参画の推進/地域福祉の充実/就学前教育の充実等
 ・環境と調和し、安全・快適で便利なまちづくり(危機管理体制の確立/快適で利便性の向上/環境負荷配慮/自然環境を次世代に継承/潤いとやすらぎ) 施策抜粋:防災・危機管理対策の推進/景観に配慮したまちづくり/生活道路の整備等
 ・人が集い、交流が生まれる活力と魅力あるまちづくり(歴史・文化を保存継承/地域特性を活かした産業振興推進/多様で活発な交流が展開される活力) 施策抜粋:農林・商工業・観光の振興/企業立地の促進/歴史・伝統の継承と保護等
 また、現在、本市は都市計画マスタープランを策定中であり、この中で、コンパクトシティを将来目標に掲げている。美馬地区(喜来・郡里)地区は、生活に必要な都市機能を集約させる「地域生活拠点」として位置付けており、広域的な都市機能を集約させる脇町地区とともに、集客を図ることを目標としている。

目標を定量化する指標

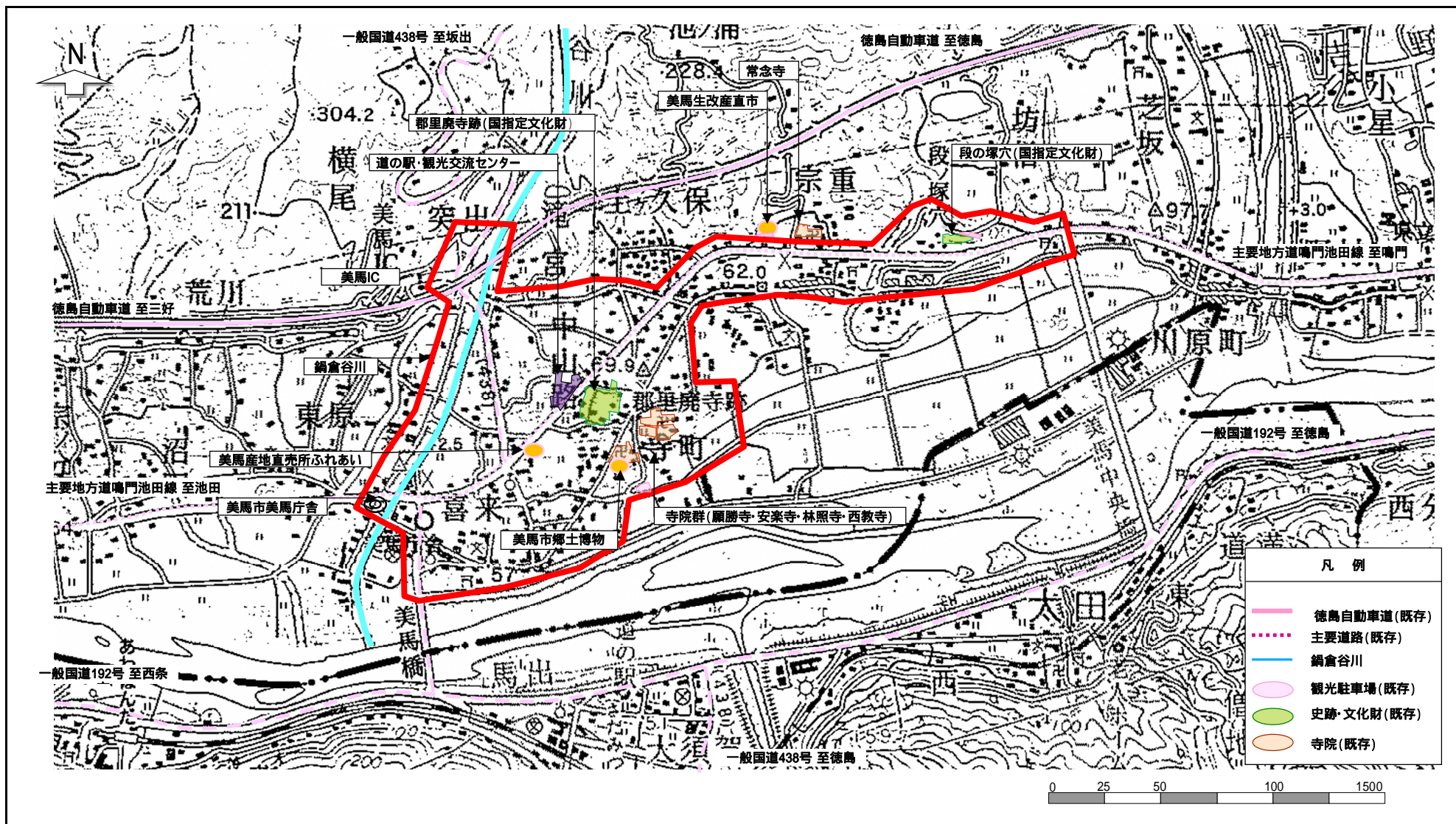
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光交流センターの年間入り込み者数	人/年	道の駅(観光交流センター)の年間入り込み者数を調査する。	観光交流センターと周辺の歴史文化資源(観光施設)との連携を深め、活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくりを進める。	----	H28	123,000人/年	H34
観光客受入寺院の年間入り込み者数	人/年	観光客受入寺院の年間入り込み者数を調査する。	歴史文化伝説伝承を継承・保全し、歴史文化資源(寺院)と観光を融合させ、活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくりを進める。	1,000人/年	H28	1,600人/年	H34
美馬地区のイベント参加者数	人/年	美馬地区(寺町・道の駅)のイベント参加者数を調査する。	寺町地区の歴史や景観を活かしつつ独自の価値を付加した「ブランド観光地域づくり」を進める。	480人/年	H28	4,600人/年	H34

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>目標1: 活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の日常空間に観光客が継続的に訪れる滞在型への転換を図る。 観光事業と連携して街路の美観と憩いや交流の場を整備し、商空間を再生する。 にぎわいと活力を生む市民活動の支援や協力体制を構築し、観光地域づくりの意識の向上を図る。 	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹事業: 美馬 265号線 (道路) 基幹事業: 美馬 294号線 (道路) 基幹事業: 美馬 652号線 (道路) 基幹事業: 美馬 290号線 (道路) 基幹事業: 美馬 644号線 (道路) 基幹事業: 寺町周辺観光ルート整備 (地域生活基盤施設) 基幹事業: 地域防災施設整備 (地域生活基盤施設) 基幹事業: 段の塚穴周辺整備 (地域生活基盤施設) 基幹事業: 鍋倉谷川環境整備 (高質空間形成施設) 基幹事業: 寺町環境整備 (事業活用調査) 提案事業: 美馬市観光振興推進事業 (まちづくり活動推進事業) 提案事業: 多様な交流と連携の体制構築事業 関連事業: 道の駅
<p>目標2: 独自の価値を活かした「ブランド観光地域」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 寺町、段の塚穴エリアでのブランド力の向上を図る。 継続的なブランドの形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹事業: 寺町周辺観光ルート整備 (地域生活基盤施設) 基幹事業: 段の塚穴周辺整備 (地域生活基盤施設) 基幹事業: 寺町環境整備 (高質空間形成施設) 提案事業: 美馬市観光振興推進事業 (事業活用調査) 提案事業: 多様な交流と連携の体制構築事業 (まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画事業を推進するために、庁内関連部署職員で構成するプロジェクトチームを編成し横断的に取り組む。 市民と行政は、情報や目的意識を共有し、ともに考え、種々の施策に挑戦し、役割を分担しながら協働していく。 	

都市再生整備計画の区域

<p>美馬地区(第2期)(徳島県美馬市)</p>	<p>面積 220 ha</p>	<p>区域 轟/高畑/東宗重/玉振前/駅/宗重/蛭子の一部/宮南/宮西/柿木/養泉/銀杏木/寺/下/願勝寺/鍵掛/喜入道/井出縁/喜来市/妙見/大宮西/天神/天神北/滝宮の一部/坊僧の一部/沼田/東荒川/東原/突出/猿坂/</p>
--------------------------	------------------	---



美馬地区(第2期)(徳島県美馬市) 整備方針概要図(第1回変更)

目標	大目標：歴史文化伝説伝承を継承・保全し、歴史文化資源と観光を融合させ活性化を図る	代表的な指標	観光交流センターの年間入り込み者数 (人/年)	-----	(28年度)	→	123,000	(34年度)
	目標1: 活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくり		観光客受入寺院の年間入り込み者数 (人/年)	1,000	(28年度)	→	1,600	(34年度)
	目標2: 独自の価値を活かした「ブランド観光地域」づくり		美馬地区のイベント参加者数 (人/年)	480	(28年度)	→	4,600	(34年度)

